

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | | 設置認可年月日 | | 校長名 | | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|-----------------------|----------------------|--------------------|---|---|-----|--------|---|------|------|-------------------|---|----|----|-------------------|---|-----|-----|-----------------|---|----|----|---------|---|----|----|
| 日本電子専門学校 | | 昭和51年9月10日 | | 古賀 稔邦 | | 〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | | 設立認可年月日 | | 代表者名 | | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人電子学園 | | 昭和38年12月17日 | | 多 忠貴 | | 〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工業 | 工業専門課程 | ケータイ・アプリケーション科 | | 平成22年文部科学大臣告示第152号 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | モバイルアプリケーション開発企業と連携し、開発の全工程(企画・設計・実装・公開)と、それを取り巻くネットワーク、サーバ、データベースを学ばせることにより、実践的な開発の知識と技術を持ったアプリケーション開発エンジニアを育成する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成27年2月25日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2年 昼間 | 1740時間 | 450時間 | 0時間 | 1320時間 | 0時間 | 0時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 120人 | | 87人 | 38人 | 6人 | 7人 | 13人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日 | | 成績評価 | | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準は、90点以上を秀、80点以上90点未満を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、59点以下を不可とする。 成績評価は、試験、平常の成績、成果物等により行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始め: 4月1日 ■夏季: 8月1日～9月10日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■春季: 3月21日～4月6日 ■学年末: 3月31日 | | 卒業・進級条件 | | ■卒業条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、卒業学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。 卒業条件に該当しない者は、原級留置とする。 ■進級条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、当該学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談、自宅訪問、保護者連携 電話・メール連絡 | | 課外活動 | | ■課外活動の種類 ・体育祭実行委員会 ・学園祭実行委員会 ・新宿警察主催ボランティア活動 ・各種競技大会 ■サークル活動: 有 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 株式会社ISIDインターテクノロジー、株式会社キヤノン、株式会社ローソン、NTTデータシステム技術株式会社、CLINKS、等モバイルアプリ開発業界、システム開発業界 ■就職指導内容 希望調査、履歴書作成指導、面接指導 ■卒業生数: 33人 ■就職希望者数: 31人 ■就職者数: 30人 ■就職率: 96.7% ■卒業者に占める就職者の割合: 90.9% ■その他 ・留学生の帰国: 2人 | | 主な学修成果(資格・検定等) ※3 | | ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>OracleJava Bronze</td> <td>③</td> <td>5人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>OracleJava Silver</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>OracleJava Gold</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 オープンソースカンファレンス2018 Tokyo/Springへ学生作品出展 | | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | OracleJava Bronze | ③ | 5人 | 4人 | OracleJava Silver | ③ | 15人 | 12人 | OracleJava Gold | ③ | 2人 | 2人 | 基本情報技術者 | ③ | 4人 | 1人 |
| 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| OracleJava Bronze | ③ | 5人 | 4人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| OracleJava Silver | ③ | 15人 | 12人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| OracleJava Gold | ③ | 2人 | 2人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本情報技術者 | ③ | 4人 | 1人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 9名 ■中退率 9.2% 平成29年4月1日時点において、在学者98名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者89名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学習上の理由、健康上の理由、経済上の理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制、キャリアセンターサポート体制、新入生準備教育、学習目標設定・管理、個人面談、保護者連携、出席管理、学生相談、カウンセリング、自宅訪問 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・電子学園特別奨学生制度(本校専願者で、学業・人物共に優秀であり、就学に際して経済的事務を有する方を対象) ・成績特待生制度(本校専願者で、高等学校進学用調査書の評定平均が本校の基準を満たす方を対象) ・試験特待生制度(本校専願者の方が対象) ・資格特待生制度(本校専願者で、本校指定の資格を取得している方が対象) ・美術特待生制度(本校専願者で、本校指定の作品を提出できる方が対象) ・課外活動特待生(本校専願者で、高等学校から課外活動に対する推薦を受けられる方が対象) ・親族入学優遇制度(入学者の親族が、電子学園の在校生または卒業生である方が対象) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構 平成30年3月31日 http://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation.html | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | http://www.jec.ac.jp/course/mobile/cm/ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会は、卒業生の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを十分に把握、分析した上で、本校の専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設または授業内容・方法の改善・工夫等を行うなど、専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施するための検討課題を協議・検討することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育の管理部署(教育部、教務部)と各学科に対して中立的な位置付けとし、実践的な教育を行うために、経営や教育現場からの制約を受けない自由な検討が行えるものとする。

尚、教育課程の編成については、以下の過程に基づいて決定する。

- ① 学科教員により、今後の教育課程について検討し改善案を作成する。
- ② 教育課程編成委員会にて、学科からの改善案について各委員の専門的知見に基づく意見を伺う。
- ③ 教育課程編成委員会での意見を踏まえ、学科長及び教育部長を中心に最終案を作成し、校長の決済で決定する。
- ④ 次の教育課程編成委員会にて、最終決定した教育課程を各委員へ報告する。

上記の教育課程を決定する過程については、学校関係者評価委員会においても報告・評価の対象とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|--|---------------------|----|
| 満岡 秀一 | 一般社団法人Open Embedded Software Foundation 理事 | 2017/10/1～2020/3/31 | ① |
| 渡辺 登 | 合同会社ワタナベ技研 | 2017/10/1～2020/3/31 | ③ |
| 古賀 稔邦 | 日本電子専門学校 校長 | 2017/10/1～2020/3/31 | |
| 船山 世界 | 日本電子専門学校 副校長 | 2017/10/1～2020/3/31 | |
| 杉浦 敦司 | 日本電子専門学校 教育部 部長 | 2017/10/1～2020/3/31 | |
| 佐々木 卓美 | 日本電子専門学校 教務部 部長 | 2017/10/1～2020/3/31 | |
| 高橋 陽介 | 日本電子専門学校 キャリアセンター センター長 | 2017/10/1～2020/3/31 | |
| 大川 晃一 | 日本電子専門学校 ケータイ・アプリケーション科 学科長 | 2017/10/1～2020/3/31 | |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

委員会は、原則として学期の切り替え時期(9月)及び、年度末(3月)の年2回は、必ず開催する。また、業界動向の変化や学科の状況等により、必要性に応じて適宜開催する。

(開催日時(実績))

第1回 平成29年9月15日 14:00～16:00開催

第2回 平成30年3月 2日 14:00～16:00開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【議題1】

ハイブリッドアプリの授業で採用するフレームワークについて。

【意見】

ハイブリッドアプリ開発では「できること」と「できないこと」を知るのが大切。学科でフレームワークを指定するのではなく、トレンドを学生に調査させてみるのはどうか。ハイブリッドアプリ開発の授業では、技術要素の変更を受け入れ、その点も含めて学生に教えることが重要。フレームワークは体験させることが重要。

【活用】

2017年10月にJapan Xamarin User Groupからエンジニアを派遣していただきXamarinのセミナーを実施した。

【議題2】

セキュアコーディング技法のカリキュラム内容について。

【意見】

新入社員研修でセキュアコーディングの研修の話はあまり聞いたことがない。作成するアプリケーション／システムにも依存すると思うが、基幹システムの開発ではセキュリティ専門の企業に依頼しているケースが多い。システム全体を俯瞰するような脆弱性チェックのソフトウェアを使用するケースが多い。クロスサイトスクリプティングやSQLインジェクションなどのスマホアプリ・Webシステムに共通した基本的な攻撃手法およびその対策から学習することは良いと思う。

【活用】

教育課程編成委員会からの意見を受け、今年度はセキュリティ全般に造詣が深い「タオソフトウェア 谷口 岳」様を招き、半年間授業を担当して頂いた。

(別途、以下の資料を提出)

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

アプリケーション開発企業で活躍できるエンジニアを育成するため、現場のエンジニアからアプリケーション構築演習の指導を受ける。演習では、最新技術動向の指導を取り入れるとともに、開発に必要とされる一連の工程を実践的に経験することを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

アプリケーションの実装技術において、連携しているモバイルアプリケーション開発企業の現役エンジニアから、最新技術の正しい利用方法やその課題、現場において必要とされている実装手法について指導を受ける。

卒業作品制作の授業において、企業等のエンジニアから課題設定などの意見をいただき、その企画内容、実現するための技術や設計・実装ポイントなどの指導を受けてアプリケーションの完成を目指す。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|-----------------|---|-------------|
| AndroidプログラミングⅡ | サービスや_intentを活用した高度なAndroidアプリケーションの開発技術について学習する。具体的には、動画処理、データ処理(CSV、JSON、データベース)、カメラ、Google Map APIを利用したAndroidアプリケーションの開発について学習する。 | 株式会社チェリービット |
| Android卒業制作 | Androidのアプリケーション、Webシステムを2年間の集大成として作成する。個人、または、少人数のグループで研究課題を設定、調査したものをアプリケーションとして構築する。 | 株式会社チェリービット |

(別途、以下の資料を提出)

- * 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

| |
|---|
| <p>3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係</p> <p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 学校関係者評価委員会の分野別分科会、ならびに教育課程編成委員会の意見や検討内容の他、アプリケーション開発業界の動向をもとに、現在教員に不足している知識、技術、技能に関する研修や教育的資質に関する研修を教員研修規定に則って実施する。 これまでは、情報処理業界ならびにITに特化した情報処理の研修企業が主催する研修に参加していたが、今後は更に連携するアプリケーション開発企業や団体から講師を招き、最新の技術・知識を習得するための研修を計画・受講し、授業への展開や、オリジナル教材等にも反映させることを基本方針とする。</p> <p>(2) 研修等の実績</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「Linuxセミナー(セキュリティ編)」(連携企業等:特定非営利活動法人LPI-Japan) 期間:2017年7月1日 対象:学科教員 内容:Linuxセキュリティに関するセミナー、SELinuxの仕組みと設定方法、OpenSSHの設定方法、WebサーバのSSL設定方法について習得する。</p> <p>研修名「Docker入門」(連携企業等:CTCテクノロジー株式会社) 期間:2017年3月20日 対象:学科教員 内容:コンテナ技術の代表的なDockerについての基礎知識・基本的な使い方を習得する。昨今の技術志向として、DevOps・継続的インテグレーションでDockerを使用している。あらゆるシチュエーションでDockerを使用する際にまず必要となる基礎知識について習得する。</p> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「H29年度夏季研修会創造性開発講座<収束技法編>」(連携企業等:株式会社ビーコンラーニングサービス) 期間:2017年8月22日～23日 対象:全教員 内容:創造思考技法の実践による革新的思考を啓発し、新しいアイデア、考え方、アプローチの仕方を実践に結びつけていくために必要な実践思考能力とプレゼンテーションスキルを向上させる。これは、教員として必要とされるグループワークでのファシリテーション力を身につけることに繋がる。</p> <p>(3) 研修等の計画</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「Androidアプリ開発 –WebAPI、非同期処理、サービス–」(連携企業等:株式会社カサレアル) 期間:2018年8月 対象:学科教員 内容:WebAPIとの連携は多くの場面で利用されるため、HTTP通信とJSONの解析方法を学習します。演習を通じて、マルチスクリーンの対応方法、バックグラウンド処理や非同期処理を利用したアプリの開発方法を学習する。</p> <p>研修名「SwiftによるiOSアプリ開発」(連携企業等:株式会社カサレアル) 期間:2018年8月 対象:学科教員 内容:より実践的なアプリ開発で必要となる技術の中から、いくつかのトピックをピックアップする。Auto Layoutを利用した柔軟な画面レイアウト、HTTP通信とJSONデータの解析、データの永続化フレームワークであるCore Dataの基本を修得する。</p> <p>研修名「HTML5モバイルアプリ開発講座」(連携企業等:アシアル株式会社) 期間:2018年8月 対象:学科教員 内容:スマートフォンやタブレット向けのWebアプリケーション開発について講義と実習によって学習する。スマートフォンの画面に対応したユーザーインターフェースの作成方法、オフライン処理についてアプリケーション方式や実装方法を学習する。</p> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「教授法研修」(連携企業等:株式会社ビーフォーシー) 期間:2018年8月6日、8日 対象:新人教員 内容:教授法の重要性の理解に始まり、対人スキルとして「話法」のスキルを身に付けた上で、独自の戦略を立てられるようになることを目標とする。</p> <p>研修名「H30年度夏季研修会 サステイナブルセミナー」(連携企業等:株式会社ビーコンラーニングサービス) 期間:2018年8月30日～31日 対象:全教員 内容:全世界のテーマである「サステイナブル」について、教育分野が果たす役割について考える。これからの教員には、「サステイナブル」の観点が求められ、その基礎知識と指導力の向上を図る。</p> <p>(別途、以下の資料を提出)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 研修等に係る諸規程 * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績) * 研修等の計画(推薦年度における計画) |
|---|

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校では、卒業生、保護者、高等学校教員、地域住民、IT分野関連団体、モバイルアプリケーション開発企業等、本校の関係者を評価委員として、学校関係者評価委員会(以下、評価委員会という)を組織する。評価委員会では、本校の自己評価報告書にもとづき、学校の運営状況やケータイ・アプリケーション科の教育状況、目標達成度、進路状況、卒業生の産業界での活躍等、教育活動に関する自己評価結果を報告する。評価委員より、自己評価結果の評価をうけ、自己評価結果の妥当性・客観性・透明性を高めるとともに、ケータイ・アプリケーション科への理解促進や連携協力による今後の運営や教育の改善等を図ることを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|---------------|--|
| (1)教育理念・目標 | 理念・目的・育成人材像の周知、職業教育の特色、将来構想、学科教育目標 |
| (2)学校運営 | 運営方針、事業計画、組織・意思決定機能、人事規程、教育活動の成果公開、情報システム化 |
| (3)教育活動 | 教育目標・育成人材像、教育達成レベル、実践的なカリキュラム、業界関連科目目標、キャリア教育、授業評価、職業教育、教員確保・育成、成績・単位基準、資格指導体制 |
| (4)学修成果 | 就職率、資格取得、ドロップアウト対策、卒業生・在校生の活躍、キャリア形成と教育改善 |
| (5)学生支援 | 就職指導体制、学生相談体制、学費支援体制、学生生活・健康管理、課外活動支援、保護者会、卒業生支援、関連分野と業界関係 |
| (6)教育環境 | 施設設備環境の維持・向上、学外実習・インターンシップ・海外研修体制、防災訓練 |
| (7)学生の受入れ募集 | 学生募集活動、教育成果の公表、入学選考、学納金、資格・就職情報公開 |
| (8)財務 | 中・長期財務計画、予算・決算・収支計画、定期的な会計監査、事業(財務)情報公開 |
| (9)法令等の遵守 | 法令・設置基準の遵守、個人情報保護、自己点検・評価、自己評価・第三者評価の公開 |
| (10)社会貢献・地域貢献 | 学校施設の教育資源の貢献、学生ボランティア活動支援 |
| (11)国際交流 | 留学生の受け入れ戦略、留学生の在籍管理と手続き、留学生の学修・生活支援体制、学習成果の発表 |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

一部の授業運営において、実習教室の開閉に関する改善を図ることが必要との意見を受け、下記の取組みを行った。
 ・指摘事項に対する実態調査を行い、迅速に対応して管理監督体制を強化すると共に適切な指導と改善を行った。
 ・授業アンケートの質問項目を変更し、授業運営上の更なる問題点の把握に努め、新たな問題点についても改善に向けた対応を行った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|-----------------------|--------------------|-------|
| 石本 則子 | 株式会社スタジオフェイク | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 井沢 祐 | 株式会社スタジオフェイク | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 内田 昌宏 | 株式会社 ラック | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 乗浜 誠二 | 株式会社 ナレッジコンスタント | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 舟山 大器 | 株式会社横浜環境デザイン | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 新 和也 | オートデスク株式会社 | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 浅賀 央起 | 株式会社びえろ | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 川崎 紀弘 | 株式会社コンセント | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 佐々木 信彦 | ストーンビートセキュリティ株式会社 | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 渡辺 登 | 合同会社ワタナベ技研 | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 満岡 秀一 | 一般社団法人 | 2017/5/1～2019/4/30 | 業界団体 |
| 宮井 あゆみ | 公益財団法人画像情報教育振興協会 | 2017/5/1～2019/4/30 | 業界団体 |
| 中台 浩正 | 東京商工会議所 新宿支部 | 2017/5/1～2019/4/30 | 業界団体 |
| 原 洋一 | 一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会 | 2017/5/1～2019/4/30 | 業界団体 |
| 米井 翔 | 一般社団法人 組込みシステム技術協会 | 2017/5/1～2019/4/30 | 業界団体 |
| 勝間田 清一 | 日本大学 生物資源科学部 | 2017/5/1～2019/4/30 | 大学 |
| 四篠 勇人 | 株式会社ウィザス | 2018/5/1～2020/4/30 | 高等学校 |
| 松下 秀房 | 目白研心中学校・高等学校 | 2018/5/1～2020/4/30 | 高等学校 |
| 沼田 宏 | 株式会社インターカルト日本語学校 | 2017/5/1～2019/4/30 | 日本語学校 |
| 小澤 博太郎 | 百人町西町会 | 2017/5/1～2019/4/30 | 地域住民 |
| 谷 伸城 | 株式会社アプリケーション プロダクト | 2017/5/1～2019/4/30 | 卒業生 |
| 中山 秀昭 | 日本電子専門学校同窓会 | 2017/5/1～2019/4/30 | 卒業生 |
| 藤本 香織 | | 2017/5/1～2019/3/31 | 保護者 |
| 植村 美智子 | | 2017/5/1～2019/3/31 | 保護者 |
| 清水 啓子 | | 2017/5/1～2019/3/31 | 保護者 |
| 日比野 晴美 | | 2017/5/1～2019/3/31 | 保護者 |
| 三浦 稚子 | | 2017/5/1～2019/3/31 | 在校生 |
| 伊藤 史華 | | 2017/5/1～2019/3/31 | 在校生 |
| 戸嶋 瑠奈 | | 2017/5/1～2019/3/31 | 在校生 |
| 假野 紗希子 | | 2017/5/1～2019/3/31 | 在校生 |
| 大久保 匠真 | | 2018/5/1～2021/3/31 | 在校生 |
| 菊地 聖治 | | 2018/5/1～2020/3/31 | 在校生 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページで公表(毎年9月1日に更新)

URL:<http://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/stakeholder-assessment.html>

(別途、以下の資料を提出)

- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- * 自己評価結果公開資料
- * 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

理念・育成人材像といった教育的目標から施設設備・財務状況といった学校運営に至るまでの情報をホームページや入学案内書などの冊子に掲載するとともに、ケータイ・アプリケーション科の教育成果発表として、学園祭での学科出展を行う。また、ホームページ上の学科ニュースで学科の取り組みを広く公開する。これらを通して、在校生・保護者、高等学校、卒業生が活躍する企業・業界、学校近隣の住民など、関係者の理解を深め、連携及び協力の促進に資するために、積極的に情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|--------------------|------------------------|
| (1) 学校の概要、目標及び計画 | 本校について、教育理念、校長名、沿革 |
| (2) 各学科等の教育 | 学科紹介、カリキュラム、時間割 |
| (3) 教職員 | 組織図、教職員人数 |
| (4) キャリア教育・実践的職業教育 | 教育の仕組み、キャリア教育、産学連携 |
| (5) 様々な教育活動・教育環境 | 学校行事、エクステンションプログラム、施設 |
| (6) 学生の生活支援 | 就職サポート、学生寮 |
| (7) 学生納付金・修学支援 | 学費サポート、納付金・時期、独自の奨学金制度 |
| (8) 学校の財務 | 貸借対照表、資金・消費収支計算書 |
| (9) 学校評価 | 自己点検評価、学校関係者評価、第三者評価 |
| (10) 国際連携の状況 | |
| (11) その他 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ、広報誌等の刊行物、その他(授業成果発表会、進級・卒業制作発表会、学科ニュース)

<http://www.jec.ac.jp>

授業科目等の概要

| (工業専門課程 ケータイ・アプリケーション科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|------------------|------------------|------------|---|---------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | Linux | OSの役割を踏まえた上で、Linuxの基本コマンドを使用しながら、ファイル操作、viの基本操作、テキスト処理、ファイルのアクセス制御について学習します。 | 1前 | 60 | | | ○ | ○ | | ○ | | | |
| ○ | | | 情報概論 | コンピュータの基礎知識（ハードウェア、ソフトウェア、OS）を踏まえた上で、データの内部表現（進数、基数変換、文字符号化方式）、アルゴリズム、データ構造について学習します。 | 1前 | 30 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | HTML5 | Webシステムの最も基本的なクライアントサイド技術であるHTML5、CSSについて学習します。ここでは、HTML5における主要な要素の利用方法、CSSのセレクターの基本文法と利用方法について学習します。HTML5プロフェッショナル認定資格にも対応します。 | 1前 | 60 | | △ | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | データベース | データとモデルの関係、RDBMSの一般的なアーキテクチャ、主要なRDBMSの特徴を踏まえた上で、MySQLにおけるSQLの各種構文（問い合わせ、DML、トランザクション制御）について学習します。 | 1後 | 60 | | ○ | | △ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | データベース設計 | データモデリング、データベース設計の流れおよびER図の基本的な書き方を踏まえた上で、リレーションの正規化（第1正規形、第2正規形、第3正規形）の方法とその必要性について学習します。 | 2前 | 30 | | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | コンテンツ制作Ⅰ | モバイルアプリケーションで使用するデジタルコンテンツ（画像、動画、音）の作成方法について学習します。特にアプリケーション内で使用するオリジナル画像、アイコンを作成します。 | 2前 | 30 | | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | コンテンツ制作Ⅱ | モバイルアプリケーションで使用するデジタルコンテンツの作成方法について学習します。特に、動画の作成および編集方法、音の加工方法について学習します。 | 2後 | 30 | | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | オブジェクト指向設計 | UMLを用いたオブジェクト指向設計について学習します。具体的には、開発プロセスと各プロセスの役割をふまえて、ユースケース図、クラス図、シーケンス図、アクティビティ図について学習します。 | 2前 | 30 | | | | ○ | ○ | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---|-------------------|--|--------|-----|--|---|--|---|---|--|---|---|---|
| | | ○ | IoT活用技術 | IoTとは何かを踏まえ、IoTデバイスの種類、IoTデバイスによるデータ収集の技術について学習します。また、IoTの活用事例を挙げながら各産業に与えているインパクト、人工知能やビッグデータとの関連性についても学習します。 | 2 後 | 30 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | Java | Javaプログラムの動作原理を踏まえた上で、Javaによるプログラム作成の手順、Javaの基本文法（変数と型、各種演算子、フロー制御、配列、メソッド、クラス、インターフェイス、パッケージ）について学習します。また、Java APIに含まれる文字列操作、コレクション、例外に関する標準ライブラリの用途と使用方法について学習します。 | 1 前 | 120 | | ○ | | △ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | モバイルプログラミング | iOSプログラミングを通して、モバイル・アプリケーションの開発方法を学習します。具体的には、統合開発環境であるXcodeの基本的な使用方法（プロジェクトの作成・削除方法、ビルド、エラーの見方、エミュレータの設定と起動方法、プログラムの作成方法）、Swiftによるプログラミングについて学習します。 | 1 前 | 120 | | △ | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | Webシステム開発 I | Webシステムのサーバーサイド技術の基礎について学習します。ここでは、PHPの基本文法の学習から始め、HTTP通信（リクエスト・レスポンスの仕組み、パラメータの送受信）、データベースサーバーとの連携、JSONデータの取り扱いについて学習します。 | 2 前 | 60 | | △ | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | Webシステム開発 II | Webシステムのサーバーサイド技術について学習します。ここでは、セッション管理、認証、リレーショナルデータベースとの連携について学習します。更に、レンタルサーバーでのWebシステム公開を目指し、モバイルアプリケーションとの連携についても学習します。 | 2 後 | 60 | | △ | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | セキュアコーディング技法 | プログラミング技術の不備に起因する様々なセキュリティリスクを踏まえた上で、セキュアなアプリケーションを構築するためのコーディング技術について学習します。 | 2 後 | 30 | | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | Androidプログラミング I | Androidアプリケーションの開発技術について学習します。ここでは、Android Studioの基本操作・設定方法から始まり、小規模なアプリケーションを開発し、レイアウトとビュー、イベント処理の方法について学習します。 | 1 後 | 120 | | △ | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | Androidプログラミング II | サービスやIntentを活用した高度なAndroidアプリケーションの開発技術について学習します。具体的には、動画処理、データ処理（CSV、JSON、データベース）、カメラ、Google Map APIを利用したAndroidアプリケーションの開発について学習します。 | 2 前 | 120 | | △ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ |
| ○ | | | iOSプログラミング I | モバイルプログラミングで学習した内容を踏まえて、ハードウェアコントロールを伴ったiPhoneアプリケーション開発技術について学習します。また、プログラミング言語Swiftの基本文法についても学習します。 | 1 後 | 120 | | △ | | ○ | ○ | | ○ | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---------------|--|----|-----|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|
| ○ | | iOSプログラミングⅡ | 各種センサーを使うなどして、各自のアイデアに従って、App Storeで販売できるiOSアプリケーションの開発を行います。また、ここでの成果を後期の卒業研究に結びつけます。 | 2前 | 120 | △ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | ハイブリッドアプリ開発技法 | 一般的なハイブリッドアプリの技術要素とその構成を踏まえた上で、ライブラリ/ツールを利用してハイブリッドアプリの開発方法について学習します。合わせて、ハイブリッドアプリの長所・短所、ハイブリッドアプリの使いどころについても学習します。 | 2後 | 30 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | iOS卒業制作 | iOSのアプリケーション、Webシステムを2年間の集大成として作成します。個人、または、少人数のグループで研究課題を設定、調査したものをシステムとして構築します。 | 2後 | 120 | △ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | Android卒業制作 | Androidのアプリケーション、Webシステムを2年間の集大成として作成します。個人、または、少人数のグループで研究課題を設定、調査したものをシステムとして構築します。 | 2後 | 120 | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| ○ | | ビジネスマネジメントⅠ | ビジネスマネジメントの基礎について学習します。具体的には、企業活動と企業組織、企業会計（管理会計・財務会計）の目的とその基礎知識、知的財産権、データ整理技法、リスク管理、品質管理について学習します。 | 1前 | 30 | ○ | | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | ビジネスマネジメントⅡ | ビジネスとそのマネジメントの基礎知識から、企業戦略の役割および基本的知識について学習します。 | 1後 | 30 | ○ | | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | ビジネス企画 | 新規事業について広く社会で受け入れてもらえるように、事業計画・収益見通しを考え、資金・人材・製造・販売までのビジネスモデルを、グループワークを通して構築します。 | 2前 | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | | | |
| ○ | | モバイルネットワーク | モバイル端末の種類と特徴、そのハードウェア構成を踏まえた上で、モバイルネットワークの周辺技術について学習します。特に、無線インターフェイス（IEEE 802.1.x、Wi-Fi Alliance）、無線通信の暗号化技術（WEP、WPA）、クラウドコンピューティングサービスについて学習します。 | 1後 | 30 | ○ | | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | 資格対策Ⅰ | Oracle認定Javaプログラマ試験の資格対策を行います。 | 1後 | 30 | ○ | | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | 資格対策Ⅱ | Androidアプリケーション技術者認定試験の試験対策を行います。1年次に学習した内容に基づき、アンドロイド全体のアーキテクチャを理解し、認定試験の合格を目指します。 | 2前 | 30 | ○ | | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | 就職活動リテラシーⅠ | コミュニケーションやプレゼンテーションの手法およびビジネスマナーなど、社会人として必須の知識を学び、就職活動に備えることを目的とします。 | 1前 | 30 | ○ | | ○ | | ○ | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|----|--|----------------|---|--------|----|--|----------|---|---|--|---|--|
| ○ | | 就職活動リテラシーⅡ | コミュニケーションやプレゼンテーションの手法およびビジネスマナーなど、社会人として必須の知識を学び、就職活動に備えることを目的とします。 | 1 後 | 30 | | ○ | | ○ | | ○ | |
| ○ | | Officeアプリケーション | Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint) の基本的操作を踏まえた上で、企業で取り扱われるドキュメントの形式・作成方法、プレゼンテーション資料の作成技術について学習します。 | 1 後 | 30 | | | ○ | ○ | | ○ | |
| 合計 | | | | 30科目 | | | 1770単位時間 | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|--|-----------|-------|--|
| 卒業要件 試験、提出課題、平常点を加味した成績評価において、全ての科目で「可」以上 (留意事項) | 1 学年の学期区分 | 2期 | |
| | 1 学期の授業期間 | 15週 | |

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。